環境学習についてのアンケート結果

滋賀県では、現在および将来の県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として、環境学習を推進しています。

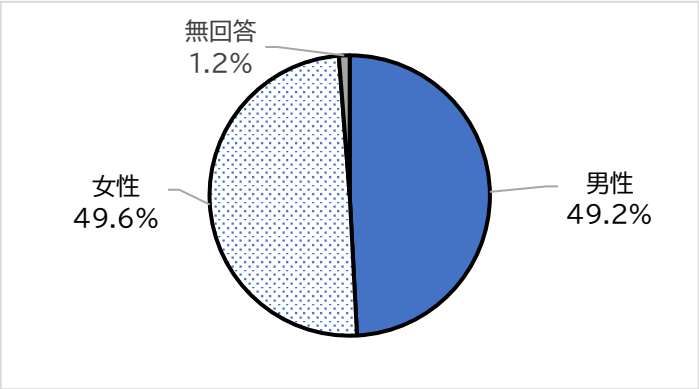
県民の皆さんの環境や環境学習への意識を調査するとともに、県が実施する環境学習の推進に係る事業に対する率直なご意見をいただき、更なる環境学習の推進に向けた今後の参考にすることを目的に本アンケートを実施しました。

★調査時期：令和7年 12 月
★対象者： 県政モニター300 人
★回答者： 県政モニター242 人（回答率 80.7%）
★担当課： 琵琶湖環境部　環境政策課
（※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。）

【属性】

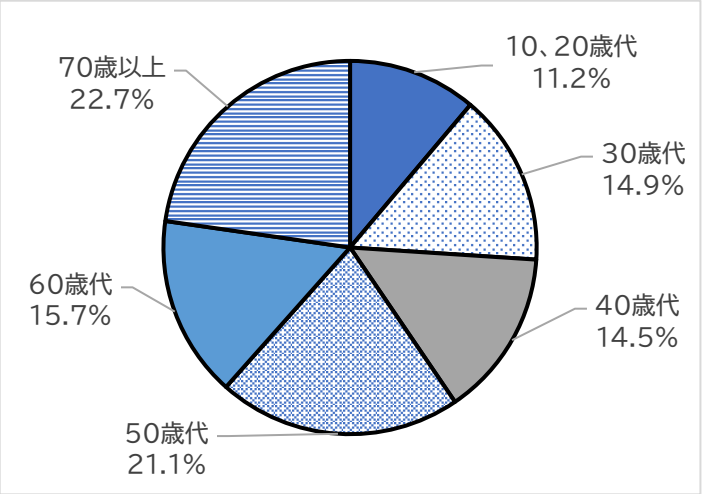
◆性別

項目	人数	割合
男性	119	49.2%
女性	120	49.6%
無回答	3	1.2%
合計	242	100.0%



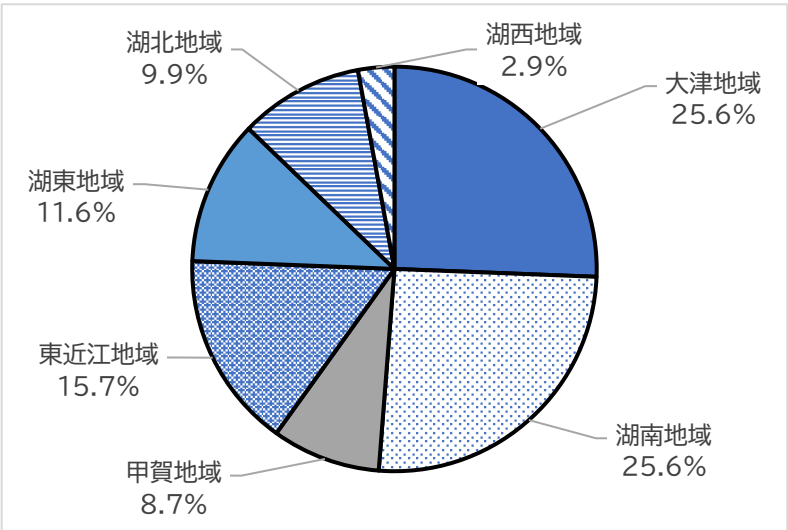
◆年代

項目	人数	割合
10･20 歳代	27	11.2%
30 歳代	36	14.9%
40 歳代	35	14.5%
50 歳代	51	21.1%
60 歳代	38	15.7%
70 歳以上	55	22.7%
合計	242	100.0%



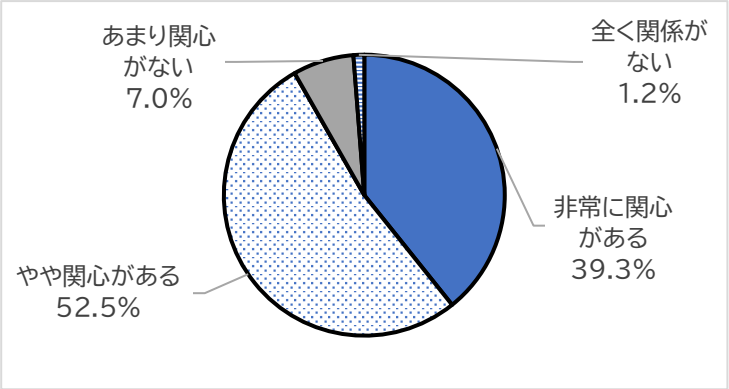
◆地域

項目	人数(人)	割合
大津地域	62	25.6%
湖南地域	62	25.6%
甲賀地域	21	8.7%
東近江地域	38	15.7%
湖東地域	28	11.6%
湖北地域	24	9.9%
湖西地域	7	2.9%
合計	242	100.0%



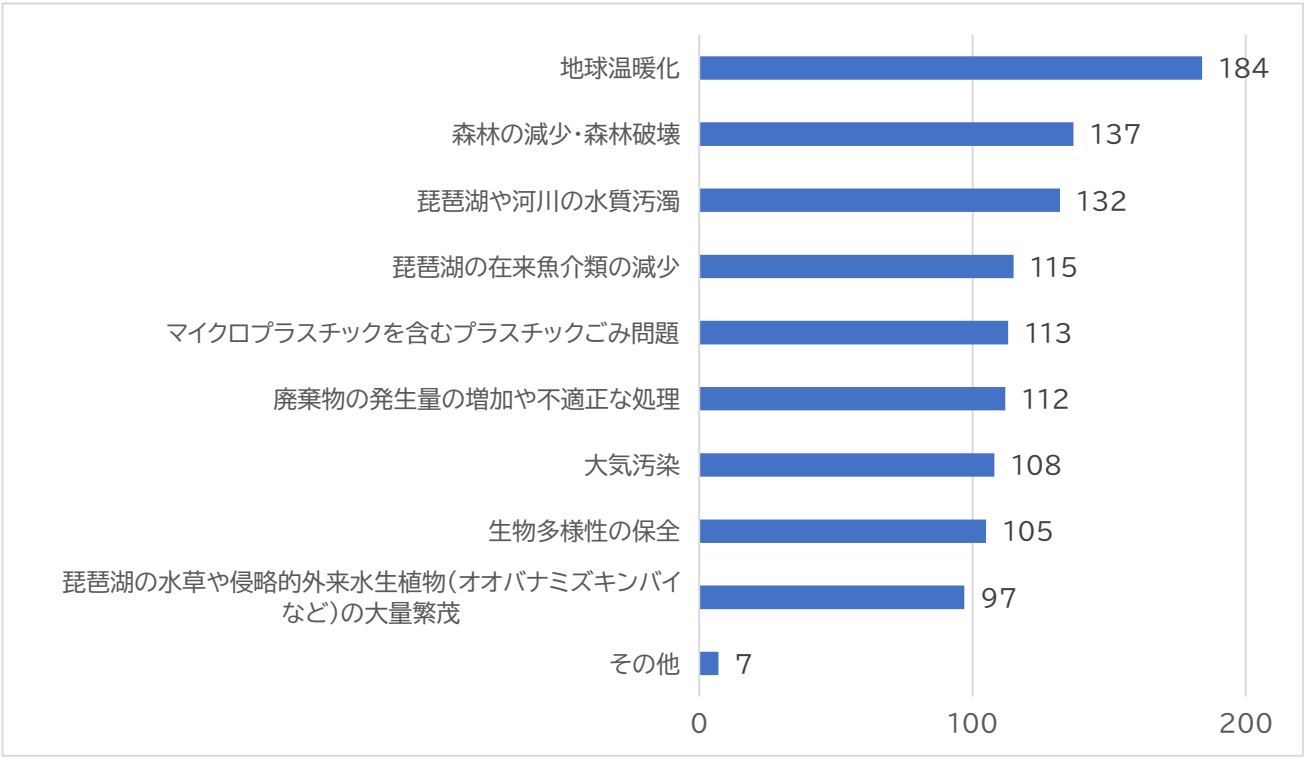
問1. あなたは、環境問題に関心がありますか。(n＝242)

項目	人数	割合
非常に関心がある	95	39.3%
やや関心がある	127	52.5%
あまり関心がない	17	7.0%
全く関心がない	3	1.2%
合計	242	100.0%



問2. 問1で「非常に関心がある」、「やや関心がある」と回答された方におたずねします。次のうち、関心のある環境問題を教えてください。(回答チェックはいくつでも。n=222)

項目	人数	割合
地球温暖化	184	82.9%
森林の減少・森林破壊	137	61.7%
琵琶湖や河川の水質汚濁	132	59.5%
琵琶湖の在来魚介類の減少	115	51.8%
マイクロプラスチックを含むプラスチックごみ問題	113	50.9%
廃棄物の発生量の増加や不適正な処理	112	50.5%
大気汚染	108	48.6%
生物多様性の保全	105	47.3%
琵琶湖の水草や侵略的外来水生植物(オオバナミズキンバイなど)の大量繁茂	97	43.7%
その他	7	3.2%

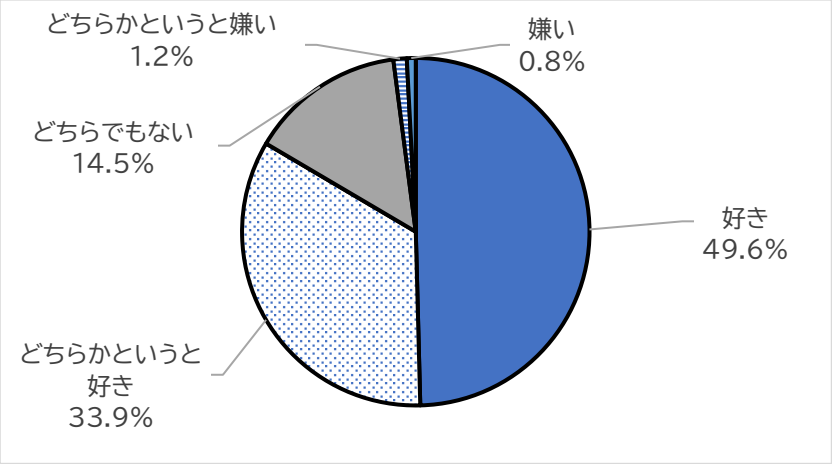


＜その他の回答（一部抜粋）＞

- 育児をしている中で、子どもの口に入る食材の安全性や、将来の気候変動の影響が気になるようになりました。環境負荷の少ない農産物や安心して選べる食の取組に関心があります。
- 少雨に伴う湖沼や河川等の砂漠化。琵琶湖の全層循環。
- クマによる被害。田畑森林の放置。
- 生活環境の変化。エネルギー問題。少子化問題と特に農業や林業の生産向上と後継者問題など。
- 原子力発電の安全性信頼性確保、黄砂飛来と呼吸器障害、線状降水帯発生や台風での豪雨時の土砂崩れによる交通停止や交通渋滞発生対策や避難路構築、高齢者住宅街の停電時対策や一時避難方法普及や避難場所構築など。
- 経済性の成り立つ適正な資源循環。

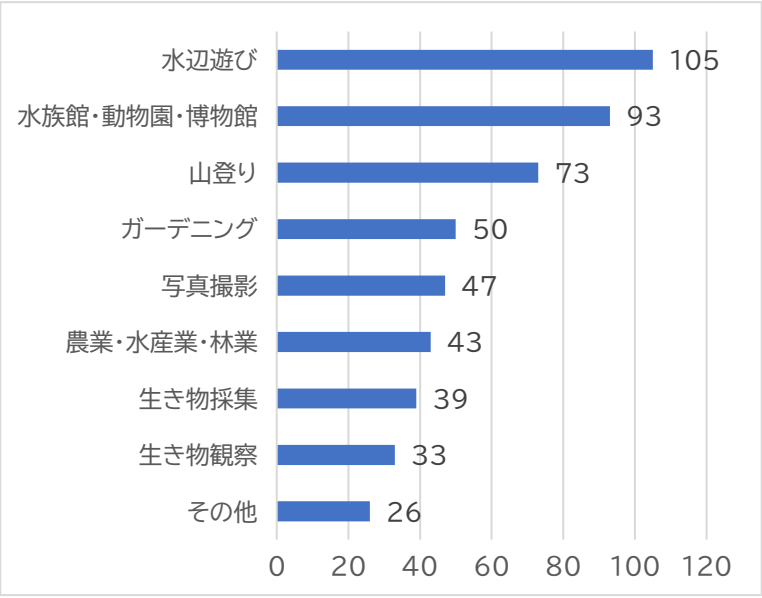
問3. あなたは、自然や琵琶湖、生き物のことを好きですか。（n＝242）

項目	人数	割合
好き	120	49.6%
どちらかというと好き	82	33.9%
どちらでもない	35	14.5%
どちらかというと嫌い	3	1.2%
嫌い	2	0.8%
合計	242	100.0%



問 3-1. 問3で「好き」、「どちらかというと好き」と回答された方におたずねします。次のうち、好きになったきっかけ（原体験）として、ご自身の経験と近いものを教えてください。（回答チェックはいくつでも。n=202）

項目	人数	割合
水辺遊び（海・湖水浴、川遊びなど）	105	52.0%
水族館・動物園・博物館	93	46.0%
山登り（森林浴を含む）	73	36.1%
ガーデニング	50	24.8%
写真撮影	47	23.3%
農業・水産業・林業	43	21.3%
生き物採集（魚釣りを含む）	39	19.3%
生き物観察（バードウォッチングを含む）	33	16.3%
その他	26	12.9%

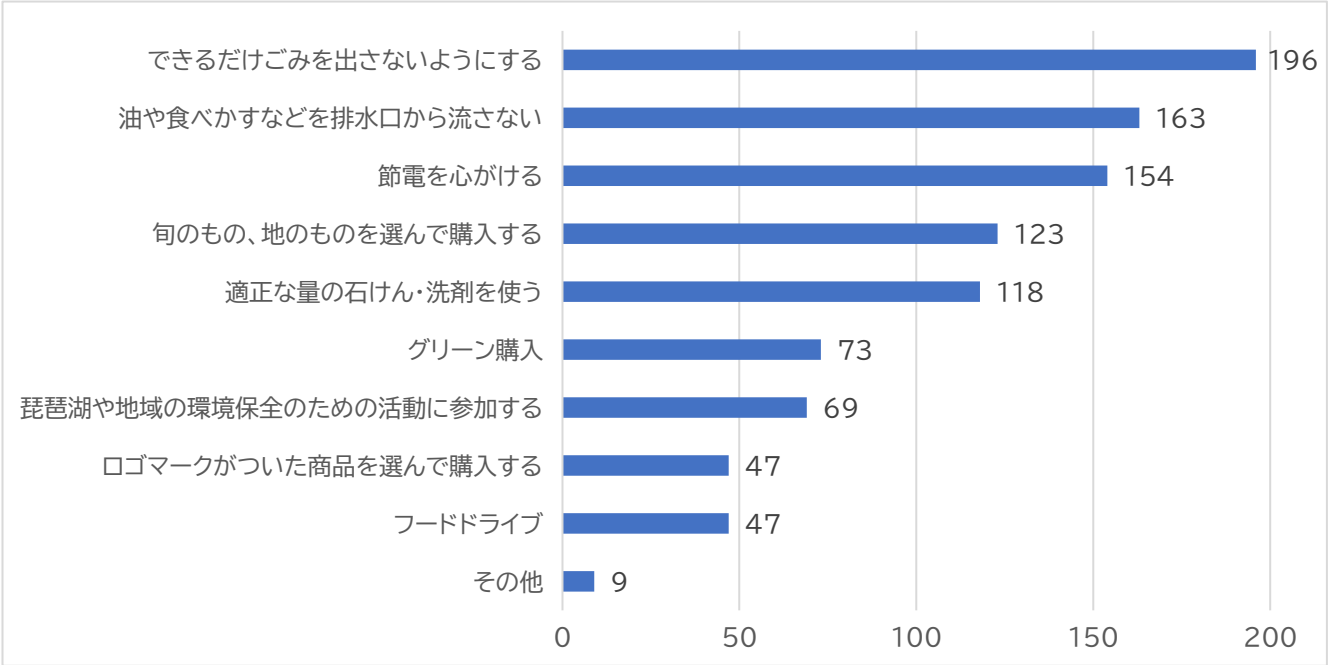


＜その他の回答（一部抜粋）＞

- 水上スポーツ。ウォーキング。自転車での散策。郷土学習。トライアスロン。ドライブ。
- 小学生の頃のフローティングスクールと葛川少年自然の家の宿泊体験。
- 自分の子どもが生き物について興味を持っているので、それにつられている。
- 小学生までは友達と屋外で過ごした。山で基地を作り、春は山菜採りを、夏は熊イチゴや桑の実を、川でミミズを餌に釣りや化石拾いをした。秋は高い木に登り山ぶどうをとった。冬はスキーをした。農繁期は畑を手伝った。
- ずっと身近に琵琶湖があり、愛着がある。
- 好きな事に理由はないです。私のように米原で生まれ、彦根に嫁いで、琵琶湖を見ていたら誰しも琵琶湖やそこに住む魚類、飛来する渡り鳥を好きになると思います。
- 自然と好きになった。

問4. 次のうち、大切だと思う環境保全行動を教えてください。（回答チェックはいくつでも。n=242）

項目	人数	割合
マイバッグの持参など、日常生活においてできるだけごみを出さないようにする	196	81.0%
油や食べかすなどを排水口から流さないようにする	163	67.4%
照明をこまめに切るなど、節電を心がける	154	63.6%
旬のもの、地のもの（県産の木材、地元で作られた農作物など）を選んで購入する	123	50.8%
洗濯や洗い物の際に適正な量の石けん・洗剤を使う	118	48.8%
環境に配慮した商品を選んで購入する（グリーン購入）	73	30.2%
琵琶湖や地域の環境保全のための活動（ヨシ刈り、水草除去、ごみ拾い、緑化活動など）に参加する	69	28.5%
「環境こだわり農産物」や「魚のゆりかご水田米」のロゴマークがついた商品を選んで購入する	47	19.4%
家庭で消費し切れない未使用食品は地域の福祉施設・団体等に寄贈する（フードドライブ）	47	19.4%
その他	9	3.7%

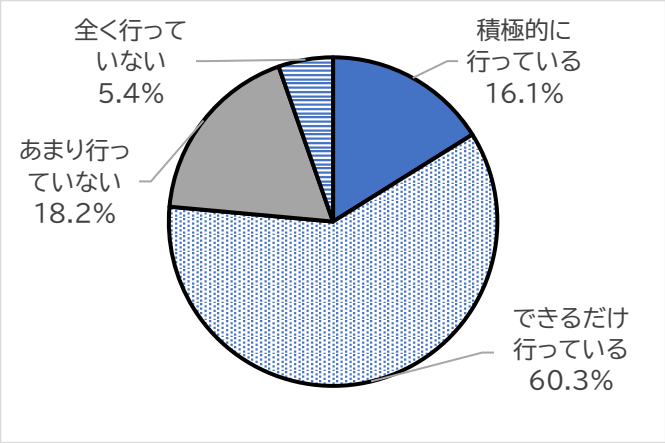


＜その他の回答（一部抜粋）＞

- 魚道を整備する。外来魚駆除。
- 適正なリサイクル。
- 耕作放棄地、森林の管理、森林伐採（山の保水能力低下、土砂災害）。
- 滋賀県は美しいと思っていただける行動をすべての県民が行う。道路わきの雑草、ゴミをなくすための行動。ゴミを捨てない啓蒙は行政、ゴミ拾いや草刈りは住民（危険な所は行政）、湖周の公園は企業など組織教育活動。
- 節約のためにしていることならあるが、環境のためにしていることは無い。
- あまり気にしていない。

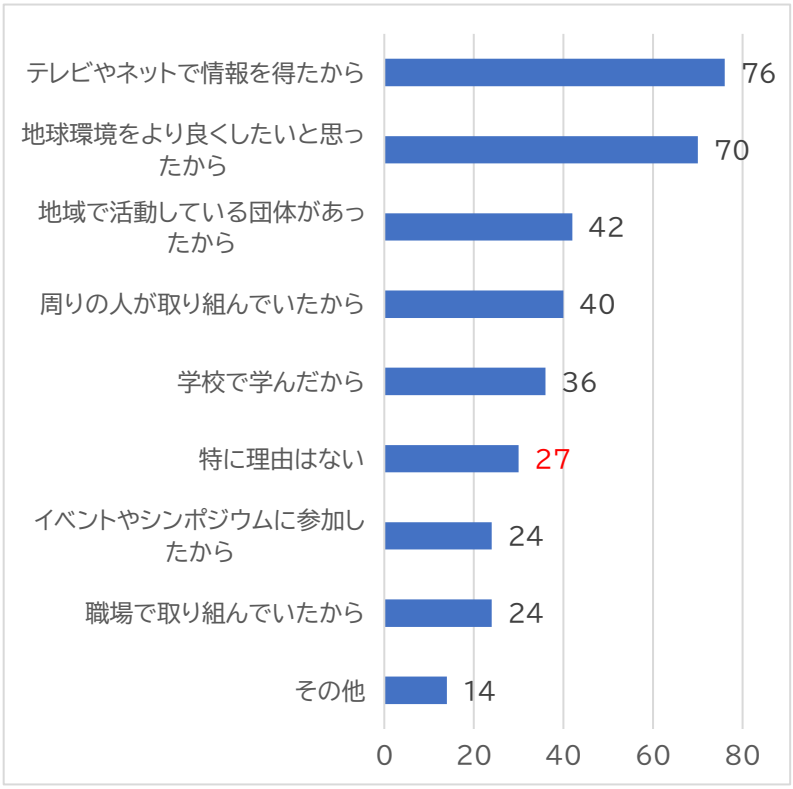
問5. あなたは、問4で挙げたような環境保全行動を、日ごろ行っていますか。（n＝242）

項目	人数	割合
積極的に行っている	39	16.1%
できるだけ行っている	146	60.3%
あまり行っていない	44	18.2%
全く行っていない	13	5.4%
合計	242	100.0%



問5-1. 問5で「積極的に行っている」、「できるだけ行っている」と回答された方におたずねします。次のうち、環境保全行動を行うようになった理由・きっかけとして、当てはまるものを選択してください。(「特に理由はない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。n=185)

項目	人数	割合
テレビやネットで情報を得たから	76	41.1%
地球環境をより良くしたいと思ったから	70	37.8%
地域で活動している団体があったから	42	22.7%
周りの人が取り組んでいたから	40	21.6%
学校で学んだから	36	19.5%
特に理由はない	27	14.6%
イベントやシンポジウムに参加したから	24	13.0%
職場で取り組んでいたから	24	13.0%
その他	14	7.6%

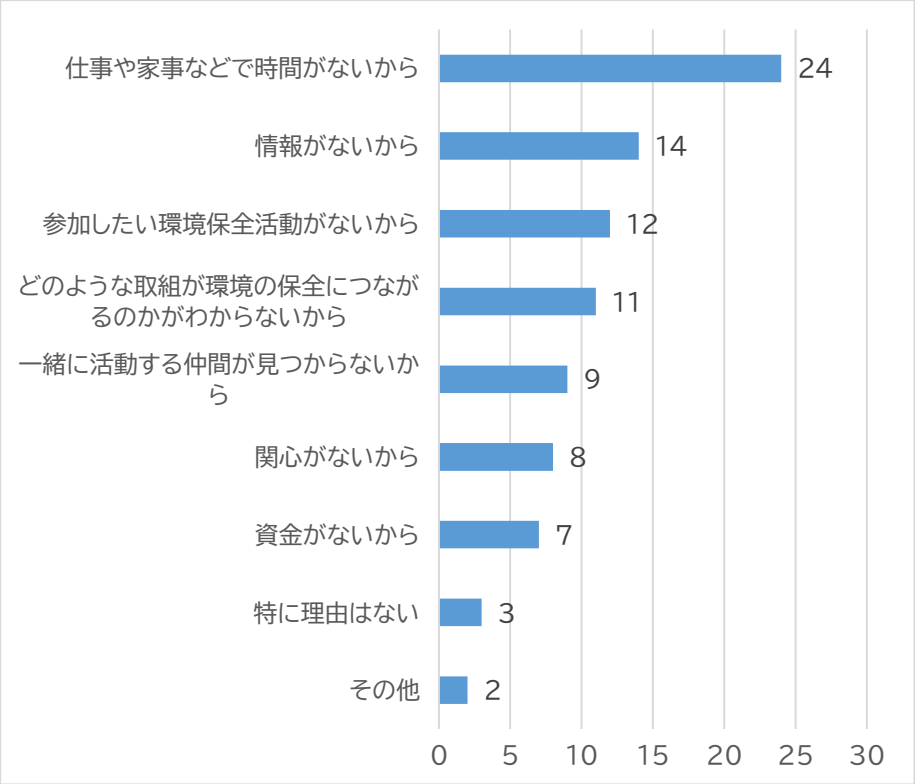


＜その他の回答(一部抜粋)＞

- 次世代の環境を少しでも悪くしない生活をしている。電化製品や食品の少なかった時代に育ったので、物を大切にすることや電力を無駄遣いしないと育てられた。昭和の良い所は取り入れて生活している。
- 子どもの頃、物を大切にし、農作物を作っている家に育ちました。作物の食べられないところは堆肥にし、土に戻し、循環を自然と学びました。
- 居住地周辺などを見て、環境に変化を実感している。高速道路建設による森林破壊も目の当たりにして、生物の生態も変わりつつあることを感じているため。
- 日常の暮らしの中で、気温の上昇や異常気象によって危機を感じるから。
- 琵琶湖が好きだから。
- 自然を大事にしたいから。
- 最後には人や動植物にとって良い事なので。
- 子どもがやりたいと言ったので琵琶湖のゴミ拾い活動を行った。エコバック持参については袋代を払いたくないから。油かすを捨てないのは排水溝のつまり防止のため。活動の動機は自己の利益のため。
- その方が気持ちがいいから。
- お得だから。

問5-2. 問5で「あまり行っていない」、「全く行っていない」と回答された方におたずねします。次のうち、環境保全行動を行わない(行えない)理由として、当てはまるものを選択してください。(「特に理由はない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。n=57)

項目	人数	割合
仕事や家事などで時間がないから	24	42.1%
情報がないから	14	24.6%
参加したい環境保全活動がないから	12	21.1%
どのような取組が環境の保全につながるのかがわからないから	11	19.3%
一緒に活動する仲間が見つからないから	9	15.8%
関心がないから	8	14.0%
資金がないから	7	12.3%
特に理由はない	3	5.3%
その他	2	3.5%

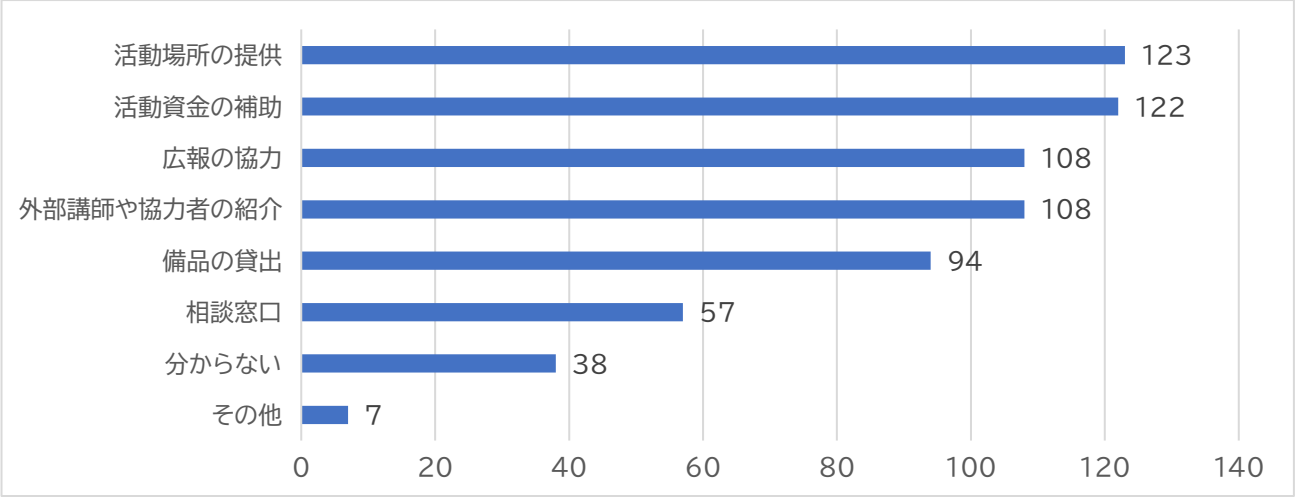


＜その他の回答(一部抜粋)＞

- 年齢的・身体的(変形性膝関節症)の理由。
- 体力を要する活動だったり、事前申込が必須だったり、あるいは主導されている方々の仲間意識が強く外から入りにくかったりと敷居が高いように感じるためです。気安くは参加しづらい。

問6. 自治会の取組などであなたが環境学習・自然体験を開催する立場になった場合を想定しご回答ください。その企画・広報・実施にあたり、求めたいサポートがあれば教えてください。(「分からない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。n=242)

項目	人数	割合
活動場所の提供(情報提供を含む)	123	50.8%
活動資金の補助	122	50.4%
県や市町による広報の協力(広報誌への掲載など)	108	44.6%
外部講師や協力者の紹介	108	44.6%
活動にあたって必要な備品の貸出(魚とり網、顕微鏡など)	94	38.8%
県(環境学習センター含む)や市町による相談窓口	57	23.6%
分からない	38	15.7%
その他	7	2.9%

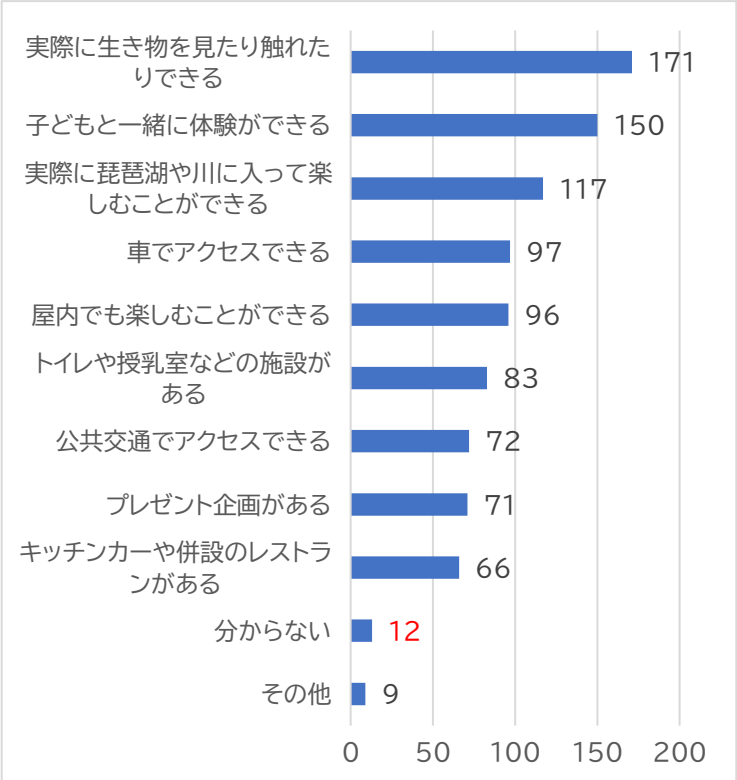


＜その他の回答（一部抜粋）＞

- SNS を使った PR が重要だと考えています。そのため、情報発信を行えるインスタグラマーのサポートがあると心強いです。分かりやすく魅力を伝えられるクリエイターの協力を求めたいと感じています。
- 清掃などの取組時、各自に袋など提供せず、バケツ~~、つまび鋏~~などの提供をしたらどうでしょう。環境のためにしているのに、かえってごみを増やしたり、不用品を増やしている気がします。
- 活動を推進していく過程で環境の変化をモニターしてもらいたい。また、モニターの結果を纏めていく上で様々なデータを提供していただく必要があるかもしれません。
- 環境関係機関の研究所やダム、水力発電所やエネルギー関連施設や水産センターなど社会教育現場を訪れる。
- 企画、実行の壁打ち、伴走。
- 大人が手を掛けるのではなく、子供たちが自ら好んで自然に接することができる場を作ること。リスクを伴うがそれも経験だ。若くしてけがをする、失敗をする経験を多く積ませる、その体験で人の心を読めるようになる。
- 名前と名誉の推薦は無用。

問7. 次のうち、幼児や小学生などの子どもを連れて参加したいと感じる環境学習（自然体験）イベントの要素を教えてください。（「分からない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも。n=242）

項目	人数	割合
実際に生き物を見たり触れたりできる	171	70.7%
子どもと一緒に体験ができる	150	62.0%
実際に琵琶湖や川に入って楽しむことができる	117	48.3%
車でアクセスできる	97	40.1%
屋内でも楽しむことができる	96	39.7%
トイレや授乳室などの施設がある	83	34.3%
公共交通でアクセスできる	72	29.8%
プレゼント企画がある	71	29.3%
キッチンカーや併設のレストランがある	66	27.3%
分からない	12	5.0%
その他	9	3.7%

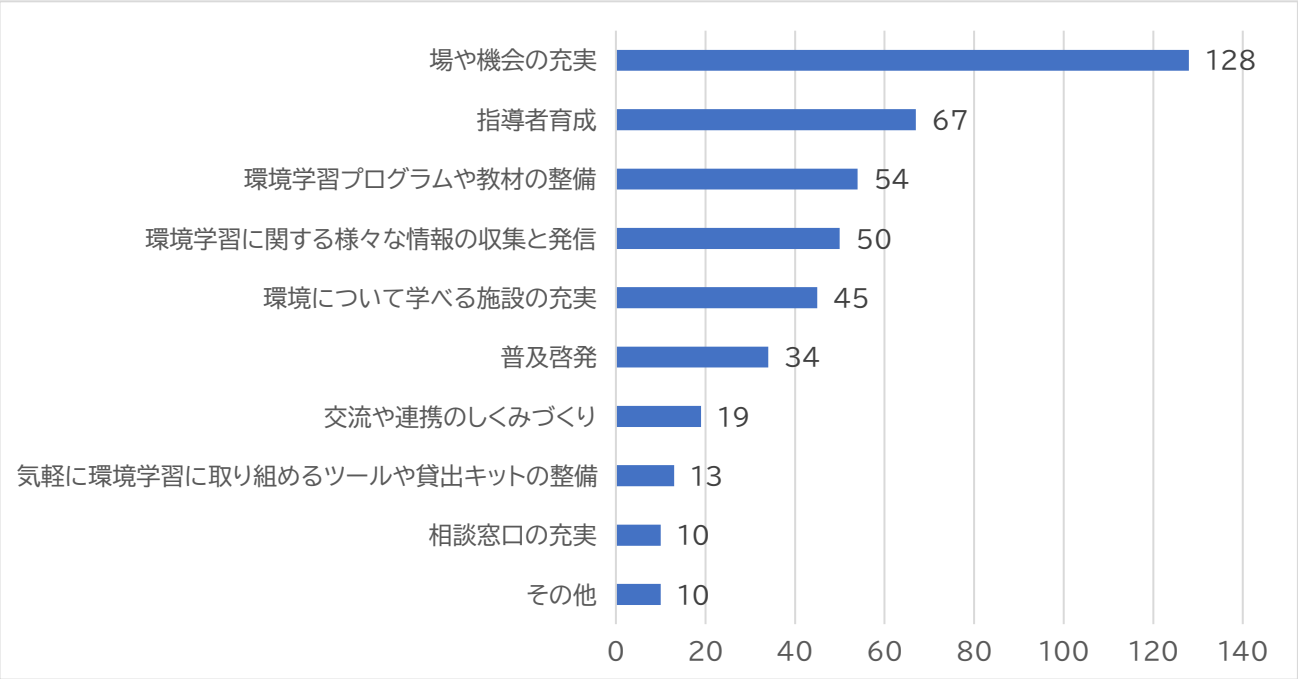


＜その他の回答（一部抜粋）＞

- 双子育児中につき、荷物が多く移動も大変なため参加しやすい環境づくりが重要だと感じています。ベビーカーでも回りやすい動線や休憩スペースがあること、スタッフのサポートが適切に整っていることが決め手です。
- 参加費が安い、アクセスしやすい立地、会場が広々としている、講師やインストラクターのキャラクターがオモシロい。
- 琵琶湖を主体として考えると地域が限定されてしまう様に思います。琵琶湖から離れている地域でもその地域でなかなか出来ない経験、触れ合うことがないものにも接する機会があれば良い。
- なるべく公共交通機関を使い参加してもらうよう呼びかけてみては。バスがない場合は駅からピストン運転などのバスを手配したりするのがいいのでは。
- 子供と一緒にではなく、子供が自ら入り込める山川を用意するべき。子供にはリスクを伴う体験が必要だ。大人が段取りしては意味がない。子供たちが自由に振舞える場が必要。子供に刃物を持たせても問題ない訳と同じ。
- ハードルが低い。
- 佐川グループの事業で行ったボート体験を子どもと参加したが、とても喜んでいた。またやりたいと思った。

問8. 次のうち、環境学習を推進する上で、県が優先して取り組むべきだと思うものを教えてください。(回答チェックは2つまで。n＝242)

項目	人数	割合
身近なところで環境学習に取り組める場や機会の充実	128	52.9%
環境学習を担うことのできるリーダーや指導者の育成	67	27.7%
環境学習プログラムや教材の整備	54	22.3%
環境学習に関する様々な情報(人材、活動内容、教材など)の収集と発信	50	20.7%
環境について学べる施設(琵琶湖博物館など)の充実	45	18.6%
身近な活動事例やイベント情報などの発信による普及啓発	34	14.0%
環境学習を担う各主体の交流や連携のしくみづくり	19	7.9%
気軽に環境学習に取り組めるツールや貸出キットの整備	13	5.4%
環境学習の相談窓口(人材、ツールなどの紹介)の充実	10	4.1%
その他	10	4.1%



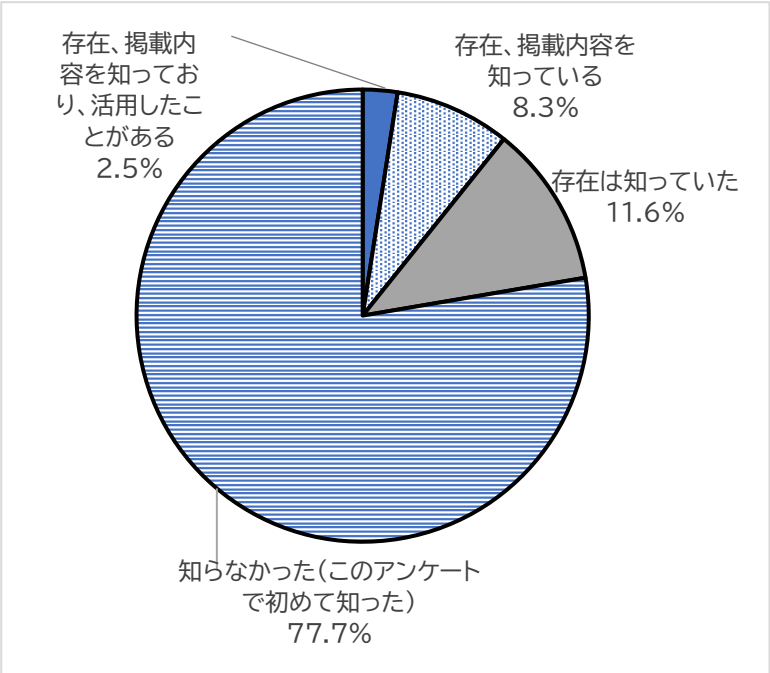
＜その他の回答(一部抜粋)＞

- 環境関係機関をリードする事ができる専門的学習機関、大学の創設、公害や地球環境整備や産業廃棄物処理の研究や廃棄物処理と再生など政府関連の教育施設キャンパスの建設。
- 部活動にする。認知症予防の活動にする。
- たとえば手話通訳や、バリアフリーなど、参加するにあたって配慮があること。
- 教育の場で学習させる。
- 教育機会は義務教育で全員に。
- お金を回すこと。
- 環境学習をすれば税金を下げる。

- 環境学習ありきなのでこのような質問になる。本来子供たちが自然に自由に接することができる場が必要なのだ。環境学習させる必要性はないはずだ。子供たちに手を掛け過ぎているともとれる。人材育成を間違えている。
- 駄目です。意味なしです。

問9.「エコロしーが」は琵琶湖博物館環境学習センターが運営するウェブサイト【https://www.ecoloshiga.jp/】です。「エコロしーが」のことを知っていましたか。(n＝242)。

項目	人数	割合
存在、掲載内容を知っており、活用したことがある	6	2.5%
存在、掲載内容を知っている	20	8.3%
存在は知っていた	28	11.6%
知らなかった(このアンケートで初めて知った)	188	77.7%
合計	242	100.0%



問10.「エコロしーが」では、子どもの自由研究などの環境学習で活用できる備品を貸し出しています(https://www.ecoloshiga.jp/equipment/)。既に貸出物品として存在しているものを除き、他にあるとよいと思う備品があれば教えてください。(自由記述。一部抜粋)

- 学校薬剤師として、学校の環境衛生に取り組んでいるが、現場で生徒と一緒に検査に取り組みたい。プール水、飲料水の水質検査、ダニ検査。照度、照明検査。換気検査等。
- 土や水の状態を調べられる簡易試験紙セットや、小型の PH 測定器があると嬉しいです。
- コンポスト実験、濾過装置、ph 測定器、溶存酸素測定器、サーモカメラ。
- 堆肥を作るキット、水浄化セット、流水水力発電気キット、しじみ貝養育セット、地中生物観察キット。
- 素材の提供や入手方法。竹とか木材、葦など。
- 水槽、シュノーケリングの道具、つなぎ、長靴、手袋、ヘルメット。
- 環境学習に関するテーマの大型絵本、撮影用カメラ。
- 生き物図鑑(水辺の生きもの、昆虫、水鳥、植物、プランクトン、化石)。
- 自治会が地域活動として休日などで子供たちに教える(一緒に行う)場合、映像機器とソフト、付近の野山に出かけて体験学習する場合の資料提供費用(コピー代程度)。
- 救急セット(怪我(包帯、消毒薬など)や体調不良時のちょっとした薬などの貸出し。
- ブルーシート、業務用扇風機、ハサミなどの文房具。
- 「レンタル」という表現は適切でないかもしれませんが、”レンタル生き物の人”(実在する方です)のような自然ガイドを個人やグループに派遣できる仕組みがあると嬉しく、学びにもつながると思います。

- 何をすればいいのか分からない人の為にいくつかのリーフレットがありますが、もう少し充実させてはどうでしょうか。テキスト形式で「〇〇を見てみよう！」シリーズ。そこから興味が出てこないでしょうか。
- 特にないです。本に関しては、地元の図書館等と連携できたら良いなと思います。
- 今のままで良い。

問 11.「エコロしーが」に追加すべき情報、機能があれば教えてください。既に掲載されている内容の強化でも構いません。（自由記述）

- 講師の情報更新をして欲しいです。最終更新日がわかるとよいです。また、簡単な実施履歴があると依頼しやすいです。
- 活動したい人向けの情報（会場など）。
- ホームページ重たくてなかなか立ち上がりません。使う側からするとこの立ち上がらないはかなり時間の無駄を感じると思います。辿り着いた人が使いやすい環境にすることが大切だと思います。貸出しの充実は凄いと感心しました。子どもが小さければ、興味のあるものも多いと思います。もっと皆が知ることが出来るといいなぁと感じました。
- 「エコロしーが」を初めて拝見しました。”琵琶湖の微生物を顕微鏡で見てみる”などの実験をテーマを設定して、動画で紹介するコーナーを設置しては如何でしょうか。備品貸出しと関連させて紹介します。ここへ行けば、こんな生物が発見できるかも、発見のコツ紹介、経路案内や周辺設備情報など家族で楽しめるツアー紹介なども良いのではないかと思います。注意点も忘れずに投稿しておく必要はありそうです。この人に訊けば、こんなことを教えてくれる。承諾をもらった上で顔写真付きで紹介して、地域の方々との触れ合いの機会も演出するのはどうでしょうか。環境の話、地元の取組なども併せて聴けるかも？しれない。
- 滋賀県におけるゴミの量、リサイクル率などの推移、それに関連して正しいゴミの捨て方、減らし方、不法投棄のリスクなどの説明。
- エコと環境のあり方を小学生から年配者までが分かりやすく学習することができるハンドブックの作成とその具体的なデータの掲載。
- 今回初めて知りましたが、すごくいい取組なのに知らなかったので残念に思いました。学校の PTA 活動や子ども会で率先してアピールしていただきたいです。地域で何かするという時代ではなくなりましたが、子どものために親たちが利用してほしい。
- 各種自治会や保育園、小学校、スーパーなどに貸出し等の情報があれば良いと思います。イベント等があっても良いと思います。
- 「エコロしーが」の存在を今回初めて知った。問 10 で「自由研究などにも活用できる備品を貸し出ししている」ということだったが、これを知っている小学生やその保護者が県内にどれぐらいいるのだろうかと思った。（自分に小学生の子どもがいないから知る機会がないだけなのか？県内全体的に認知度が低いのか？）滋賀の小学生はやまのこ活動や琵琶湖学習など、滋賀の自然にふれて学べる機会があるので、こういった学習場面でエコロしーがの存在をアピールできると、子どもたちを通じて認知度も上がっていくのではないかと思った。
- エコロしーがの認知度がまだ高くないと感じるため、まずは利用者が気軽に存在を知れる情報発信

の強化が必要だと思います。SNS での発信や、学校・地域イベントでの紹介機会を増やすことが有効だと考えます。~~Instagram で滋賀の紹介漫画も発信しているため、広報面でお力添えできる機会があればぜひご相談いただけると嬉しいです。~~
~~https://www.instagram.com/p/C5s-6-DygId/?igsh=MWZoYmJmMGI4eWJxeQ==~~

- そもそも、今までこの WEB ページを見る機会が無かった。いつもいつも宣伝をするのは難しいとしても、年に数回でも、アピールキャンペーン期間を設けたりして、この WEB ページを見る機会を増やす取組があっても良いかもしれないと思いました。
- 科学館など、開館中いつでも気軽に機材をレンタルできる施設が（琵琶湖博物館以外にも）あれば自由度が増すと思いました。
- 草津市だけでなく、県内主要都市の役所にも貸出担当部署があればいい。
- 地域活動では、子供対象で子供夏休みラジオ体操、高齢者対象で『ふれあいサロン』（主として女性高齢者が参加）、『老人会』（主として男性高齢者が多い）、夏祭り、冬祭りなどがあり、子供対象行事として、地域の環境をよくする体験学習を定例化するのも良いと考えます。私たち高齢者は、幼い頃、自然と接した遊びや遊びと接した学習などで、たくさんの思い出を持っていますので心身的に豊かです。現在の子供は、総てではありませんが、学校から帰れば塾、土日も塾、正月休みも特別教室という塾、幼稚園から塾や習い事で、のびのび自然と接する機会が少なく、大人になった時の思い出に、高齢者が地域社会で支援できれば良いでしょう。
- 空、山、大地、川、湖、海など全てが繋がっているという学習。大雨は嫌だけど雨は大切、大雪も嫌だけど雪も大切、（雪解け水がおいしお米を作るのです）雑草も嫌な時があるけれど雑草という名の草はないということを話してあげてほしい。